

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立明治小学校

種別 幼稚園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒 836-0012
福岡県大牟田市明治町 2-21-1

E-mail : meiji-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/

児童生徒数：男子 104 名 女子 120 名 合計 224 名
児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動概要

- 大牟田市は、ESDを推進するため、平成23年度に市内の全小中学校がユネスコスクールへ加盟している。本校でのESDは、エネルギー環境教育を中心に据えながら推進することとし、主に生活科や総合的な学習の時間において1年生から6年生まで発達段階に応じて計画的に学習を進めている。
- 本校では、「継続性」と「関連性」という二つのキーワードでエネルギー環境教育を核としながらESDを推進している。そして、イベント的な一過性の学習で終わらせるのではなく、各学年の発達段階に応じながら内容を系統立て、地域理解・エネルギーへの理解に継続して取り組むことを大切にしている。そのために、いずれの学年においても、地域の特色を生かした体験活動を工夫し、継続して取り組むようにしている。さらに、学校だけの取組ではなく、家庭や地域、事業者等と連携しながら、子どもたちのエネルギーや環境への意識や意欲、実践力を育成するようにしている。
- 大牟田市は、炭都であるという共通点から中国の大同市と友好都市を締結し、幅広い分野にわたって友好交流と国際協力を行っている。環境分野に関しては、JICA 草の根技術協力事業を活用して、専門家派遣とともに、大同市からの研修員を受け入れている。専門家派遣としては、本校教員が3年連続して派遣され、大同市の環境保全の重点である水質保全について、現地小学校での学習指導や啓発を行ってきている。本校では、この事業を生かし、5年生の単元において、国際理解の視点を付加し、大同市からの研修員と交流したり、両市の水環境・水質の共通性と差異性を探ったりする学習を展開している。さらに、両市の子どもたちが「環境」という共通の課題意識を持って、相互に発信・交流していく実践を重ねてきている。
- 本年度、生活科・総合的な学習の時間の授業時数については、全校で126時間を配当し、計画的に学習を進めた。

<平成24年度の主な実践活動内容>

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
教科	ぐんぐんのびろ (生) 明治と仲良し 大作戦(生) 身の回りの電気 (学活) 緑のカーテン作り	ぐんぐんのびろ (生) 明治のすてき みつけ隊(たい) (生) 電気を使って (学活)	豆電球に明かりを つけよう(理)	電池のはたらき (理) 暮らしの うづかわり (社)	電磁石の性質 (理) 環境を守る人々 (社)	電気の性質と はたらき(理) 生物と地球の かんきょう(理)
総合			エネルギーと 私たちの暮らし (出前授業) めざせ植物博士	大切にしよう エネルギー (出前授業) 地球にやさしいこ とをしよう (施設見学等)	ぼくたち、私たち 環境探検隊 エネルギーについ て知ろう (出前授業)	エネルギー子ども サミットを開こう 科学の不思議を 体験しよう (出前授業)
特別活動	クリーンアップ作戦・エコバッグ製作の実践					
道徳 3-(2) 自然愛	どうぶつにも 心がある	はると おはなししよう	植物のふしぎ	鳥にのこした かきのみ	自然を守る エゾリス	地球があぶない 海に生きる おじいちゃん
日常	空き缶回収 ソーラー花時計 児童集会(環境発表) エコキャップ運動					
	※エネルギー環境委員会				分別収集 環境整備 エコバッグ製作	
地域・保護 者との連携	講演会 学習成果の発表 学校便り 関連施設見学・関連企業との連携 ユネスコスクール子どもサミットでの発表					

年間計画に基づくエネルギー環境学習の例

① <4年生：総合「大切にしようエネルギー」>（8時間）

シャープの方をゲストティーチャーとして迎えた「出前授業」では、手回し発電機のハンドルを回して電気をつくり出す体験をした。また、空気と二酸化炭素の温まり方の違いを比較実験で確かめる学習も行った。子どもたちは具体的な操作や実験を通して、電気をつくり出すことの大変さを実感するとともに、地球温暖化につながる二酸化炭素の発生を少しでも抑える必要性に気がついた。そして、こまめに電気を消すこと、使わないコードはコンセントから抜いておくなど、自分たちができる節電について、具体的な生活の見直しまで考え合いながら、電気の効率的な利用について捉えていった。

② <6年生：総合「科学の不思議を体験しよう」>（10時間）

校区内にある電気化学工業の方々をゲストティーチャーに迎え、省エネルギーの観点からLEDを使った光の色の合成の実験を行った。さらにシャーベットづくりやサーモグラフィーなど、熱エネルギーの実験も行った。この実験を通して、子どもたちは、科学の不思議さにふれるとともに、自分たちの身の回りには様々な形でエネルギーがあり、それらをうまく利用することで現代の自分たちの生活が豊かになっていくことに気がついた。さらに、エネルギーの有限性についても学習を深め、限りあるエネルギーを大切に使いようという考えを持つことができた。

③ <1年生：生活科「ぐんぐんのびろ」>（14時間）

校区在住の方々を招いて、アサガオを緑のカーテン用の花壇に植える活動を行った。大人と一緒に植えることで、1年生にとっては難しい作業もスムーズに進行した。その後、熱心に水やりや草取りなどの世話を続けた結果、夏休みの間に2階職員室のベランダ柵まで蔓が伸び、たくさんの葉を繁らせて緑のカーテンが完成した。残暑が厳しい9月を涼しく過ごすことで、子どもたちはエアコンや扇風機を使わなくても快適な環境をつくる方法があることに気がついた。また、この活動を行ったことで、地域へも自宅に緑のカーテンをつくる活動が広がってきている。

④ <5年生：総合「ぼくたち、私たち環境探検隊」>（20時間）

大牟田市と中国大同市との友好交流と国際協力については、環境教育を通じた交流の促進、学校間の連携を図ることが両市の教育担当および環境部局から期待されている。そこで、本單元においては地域の水環境について調べ・まとめる活動だけでなく、両市の水環境・水質の共通性と差異性を探る国際協力の視点まで加えた実践を行った。

子どもたちは、まず校区を流れる堂面川の水質や生き物等を調査した。次に、調査で得られた知識、情報をもとにして話し合ったり、学習支援ボランティアの方に意見をもらったりしながら気づいたことや思ったことを模造紙にまとめた。さらに学習の成果と環境を共に守っていこうという大同市の子どもたちに向けたメッセージを盛り込んだビデオを作成した。この模造紙とメッセージビデオを本校教頭が JICA の専門家派遣事業で訪

